



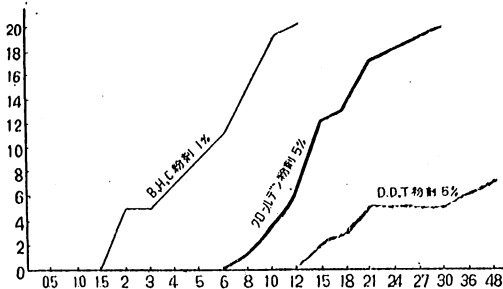
II. 粉 剤

クロールデン粉剤 5%	0	0	0	0	0	1	2	10	12 (1)	12 (3)	13 (6)	8 (12)	7 (13)	3 (17)	2 (18)	1 (19)	0 (20)	—	—
B.H.C.粉剤 1%	1	10	14	15 (5)	15 (5)	13 (7)	11 (9)	9 (11)	5 (15)	1 (19)	0 (20)	—	—	—	—	—	—	—	—
D.D.T.粉剤 5%	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	4	2 (2)	3 (3)	1 (15)	1 (5)	1 (15)	1 (5)	1 (6)	0 (7)
cont.	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

時間別死虫率比較

時間	B.H.C.			クロールデン			D.D.T.		
	0.1	0.25	0.5	0.1	0.25	0.5	0.1	0.25	0.5
48時間後	100	100	100	95	100	100	15	25	55
24時間後	100	100	100	40	75	80	5	15	40
18時間後	95	95	100	20	60	60	5	10	30

ホイツキカメムシの死虫率曲線



- B. H. C. 粉剤 1% (日産化学製)
- D. D. T. 粉剤 5% (日産化学製)
- chlordane粉剤 5% (農薬協会提供)

3. 試験実施昭和25年9月15日

考 察

1. 乳剤では B.H.C. r 0.5~0.5% のいずれも撒布後 1 時間目から仮死状態を呈し、4 時間後から死虫が認められ、r 0.5% では 18 時間目に、r 0.05% は 30 時間

目で 100% の殺虫率を示した。

D. D. T. 乳剤では 1.5 時間乃至 2 時間から仮死状態を呈し、15~18 時間目に至つて死虫を認めたが、48 時間後に於て 0.5% で僅かに 55% の殺虫率を示したに過ぎなかつた。

chlordane 乳剤の 0.1~1.5% では 2 時間~3 時間目から仮死状態を呈し、8 時間目から死虫が認められ、1.5% は 36 時間目に 0.1, 0.25, 0.5, 1.0% は 48 時間で 100% の殺虫率を示した。

2. 粉剤に於ても乳剤と同様の傾向がみられた。即ち、B.H.C. r 1% 粉剤では撒布後 30 分から仮死状態を呈するものが増加し、2 時間目から死虫を認め、12 時間目で 100% の殺虫率を示したが、5% D.D.T. 粉剤は 6 時間後に至つて仮死状態を呈し、12 時間目から死虫が認められたが、48 時間後に於ても 35% の殺虫率を示したに過ぎなかつた。5% chlordane 粉剤では 4 時間目から仮死数が増加し、8 時間目から死虫を認め 30 時間で 100% の殺虫率を示した。

3. 以上の結果からホイツキカメムシに対する B. H. C. chlordane 及び D. D. T. に比し速効性であり殺虫力も優れ、乳剤では B.H.C. r 0.05% でも有効であつたが、D. D. T. は最も速効性であり、ホイツキカメムシに対しては、殺虫効果は期待出来ない。

chlordane の殺虫効力は、B.H.C. のやうに速効性ではないが、又 D.D.T. 程のものである。ホイツキカメムシに対し B.H.C. より殺虫力は劣つて居り、カメムシに対し、chlordane が特に有効であるとは認めなかつた。